

150万本のヒマワリ畑

JR三宮駅南側にあるセンタープラザ一〇階に、「神戸からありがとう」を発信する事務局がある。

根来 司さん（四四）は、ひまわりの種を配るのに忙しい毎日を送っている。

二十一世紀に、ポर्टアイランド第6仮設住宅跡地にひまわり畑をつくり150万本咲かせようとプランが進められている。

神戸からありがとう



神戸では、震災から五年目に全国の方々からお世話になった感謝の気持ちをイメージする花として、ひまわりを決めた。その理由を根来さんは神戸の魅力と夢を公募したら《花の分野》でトップであったこと、また『震災である少女の命が奪われた。彼女は仲の良かった隣の夫婦の飼っていたオウムにひまわりの種を持っていた。そのひまわりが震災後のある日、



彼女が眠るガレキの下から発芽し、数多くの大きな花を咲かせた」というエピソードがあり、これを市民グループが少女の生まれ変わり、また復興のシンボルとして育てているのです」と熱っぽく語る。

もう一人のスタッフの坂田 角太郎さん（四四）は「神戸からありがとう」の葉書と全国へ発信しようと呼びかけている。「来年一月十七日から九月三十日まで《花》と《ひかり》をシンボルにして感謝の催しを行うので、ぜひ神戸に来て素直な、街の姿を観てほしいと願っている。

ひまわりの種は、すでに二〇万袋が配られていて、今年の夏、全国で花が咲きその種が来年神戸で大きく咲き乱れることになる。

感謝の催しの一つに学校の校庭を《芝生にしよう》というアイデアも寄せられている。現在、神戸製鋼所グラウンドで実験が重ねられており、来年には、モデル校が誕生するという。

つつましかに、心のこもった「感謝の催し」は、市民・企業・行政の連携プレーで裾野を広げている。

あなたも、参加してみませんか？

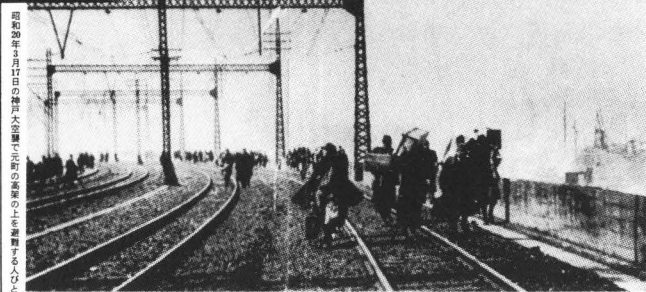


炎の記録神戸大空襲

神戸空襲を記録する会
神戸大空襲戦災資料目録



▲今年三月十七日に行われた長田ウォーク



昭和49年3月17日の神戸大空襲を元日の朝の光景として撮影する人々

人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた

震災資料室

発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-1231
発行人/寿 広文
編集人/武川・福島・山西

第43号

もくじ

- 1 あのと体験を後世に…
荻藻島クリンセンター
寄稿・地域分析
- 2 150万本のヒマワリ畑
- 3
- 4

あの体験を後世へ…

第30回全国連絡会議

神戸大会

空襲・戦災を記録する会
協力/
人・街・ながた震災資料室

日時 二〇〇〇年

七月二十九日(土)

十三時～十七時三十分

七月三〇日(日)

九時～十三時

場所 神戸市立中央小学校

(神戸市中央区神若通七・一一)

第一日目

- * 中央小学校児童コーラス
- * 「空襲と戦災を記録する会」三〇年の歩み
- * 講演『戦災と震災からの復興』
- * 戦争遺跡保存の動き
- * 空襲と朝鮮人
- * 米軍資料から見た阪神間の空襲
- * 米軍資料研究チームからの報告

第二日目

- * 全体討論会

(2面へ続く)

大事なのは「ゴミを減らすこと」

次に「再利用」「再生利用」

六月は環境月間だ。荻藻島クリーンセンターの掲示板には「循環社会、捨てずに生かす新時代」「ごみの持ち出しのルール」「アイドリング、ストップ」等のポスターが貼られている。

今日は北須磨小学校の四年生五十五人が見学に来ている。子どもらはテキストを開き村田成所長さんの話を熱心にメモをしている。

現在、神戸市内の小学校の四年生は社会科の授業で「くらしとごみ」をテーマにしてごみ処理と環境問題を勉強している。

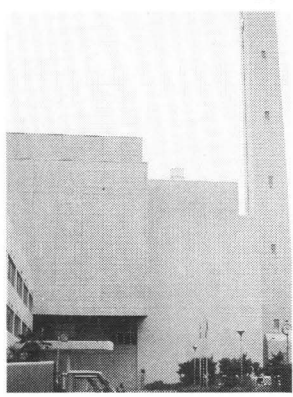
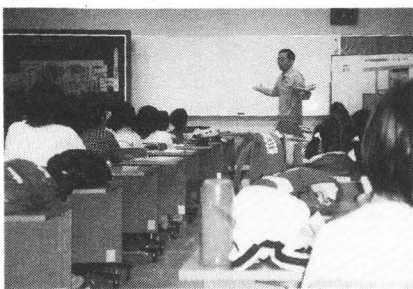
村田所長さんは「ここは一日二百トンを処分できる焼却炉が二台あります。ごみの処理費は神戸市全体で一日六千八百万円かかっています」との話を皆は「へー」との声を上げていた。また大切なことは「ごみを減らすこと」で「一、リデュース（抑

制）二、リユース（再利用）三、リサイクル（再生利用）」の意味を分かりやすく説明をされている。

荻藻島クリーンセ

ンターは先の大震災で損傷し二月五日まで稼働出来なかったそう。当時の資料を見ると、瓦礫類を含む「荒ごみ」は二月で対前年比で五倍に達し、また震災による混乱で市内いたる所で不法投棄が多発し所謂「ごみがごみを呼ぶ」状態が夏ごろまで続いていた。

この施設は七月から新たなダイオキシン対策の工事に入るので各学校からの見学は週に四・五回予定されており多忙な六月である。



(1面よりの続き)

二〇〇〇年の今年、「全国空襲・戦災を記録する会」では、第三〇回の記念大会を神戸で開くことになりました。私たち「神戸空襲を記録する会」は一九七一年に誕生して以来、あの忌まわしい体験を記録し後世に伝えようと、市民の力で地道な活動が続けてまいりました。その間、代表や世話人を次々失うなど、意気消沈した時期もありましたが、毎年三月一七日に行う空襲犠牲者合同慰霊祭に参加してくださる百数十名の市民の皆さんに後押しされて存続してきました。

あの震災から五年。神戸の街は元通りの活気を取り戻しつつあります。全国各地から多くの参加者を迎え「いのちと平和」を訴えていきたいと思えます。突然大切な人達を失った悲しさをまだ昨日の事のように覚えている神戸の若者たちに「いのちと平和」を今一度考える場にしてほしいと願っています。

大会当日、神戸市立中央小学校の児童の皆さんが、「しあわせはこべるように」他をコーラスされます。そして長田の震災資料室からも展示していただけるようになりました。全国の人達に、阪神・淡路大震災のことも理解を深めていただきたいと思います。

「神戸空襲を記録する会」

代表・中田 政子

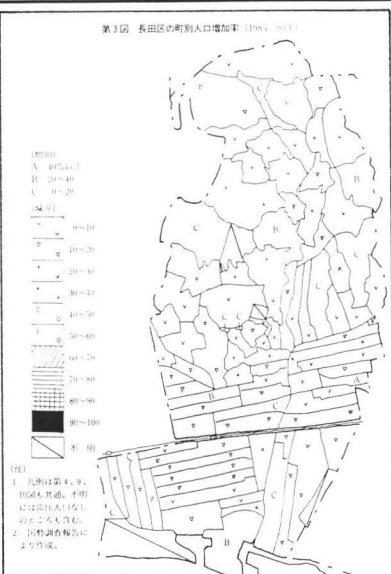
寄稿いただきました

地域分析

(愛知学院大学産業研究所報)

この冊子のなかに愛知学院大学商学部教授の小池秀夫氏の論文が報告されている。震災後の神戸市の人口動向の地域差②である。この論文の中で長田区における人口動向が述べられている。ここでその一部を紹介させていただくことにする。

長田区の人口は実に特徴的である。いくつか列挙してみる。



- ① 九区の中で最も人口が少ない。
- ② 兵庫区について早くから人口減少が始まった。
- ③ 一九八〇年以降は最も減少率が高い。
- ④ 人口密度が最も高い。
- ⑤ 高齢化率も兵庫区について高い。
- ⑥ 震災後四年間の月別推計人口で唯一増加したことがない。
- ⑦ 外国人の数が中央区に次いで高い。
- ⑧ 外国人の比率が最も高い。
- ⑨ 震災による死亡率が高い。
- ⑩ 死因における焼死・焼骨等の比率が高い。
- ⑪ 外国人犠牲者のうち四二・二％が集中した。

これらの特徴のうち人口動向を取り上げ、町別比較してみたい。

長田区は九十六の町から成っているが、一九九五年の国調時点では人口が確認できるのは九十二町である。震災をはさむ一九九〇年から一九九五年に人口が増加した町は減少はしたが、十二を数え、人口が四〇％以上増加した町は逆に四に増えている。しかし、同時に、それまで一町にすぎ

なかった人口急減地域（五年間で三〇％以上減少）が実に四十六町と半数に達した。人口が半減した町も十七を数えた。山地部およびその隣接地と海岸部での人口減少率は小さく、山陽本線に沿う形で人口減少急減地域が形成されている。五年間で七九・一％と最大の減少率を示したのは七番町である。震災直後には七十七人減少し、僅か十九人になった。次いで御蔵通、池田塩町、御船通、そして須磨区に接する水笠通の順に減少率は七〇％を超えた。長田区の人口減少率は、震災の前後も最大である。しかし、もちろん区内のすべての町で人口が減少したわけではない。常に一〇を越える町では、人口が増加していたし、四〇％以上増加した町もいくつか見られた。その理由は、災害復興住宅が建設されたからである。被災地の人口規模そのものは回復に向かっているが、最観的にはもちろん、住民の内容や関係などを含む生活一般も様変わりしつつあることは言うまでもない。

ありがとうございました